

## 事例紹介

### 愛媛県松山市立 <sup>はぶ</sup>垣生中学校

## 授業やテスト問題作成に、 普段使いのeライブラリ



松山市の中学校では各先生の端末にeライブラリがセットアップされており、プリントや教材検索など、職員室でいつでも使える環境になっています。同市の垣生中学校での活用の様子を紹介します。

### 授業 プリント→ドリル→プリント⇒定着

英語担当の三好計彰（みよしかずあき）先生は、年間を通してパソコン室でのドリル学習を授業に取り入れ、既習事項の定着を図っています。2年生の授業の様子を紹介します。

#### ● 音量マックスの効果

この日の学習内容は比較級・最上級です。単元別プリントの基本問題に取り組んだ後、ドリルで学習します。先生からの「ボリュームは？」の問いかけに「Max!」の音が教室に響きます。

「生徒は、間違わないようにしっかり考えて取り組むようになり、つまずきの自覚にもつながっています」と三好先生。また、×の音を手掛かりに、つまずいている生徒の支援に入ったり、クラス全体の理解度を感覚的に把握し、タイムリーな対応に繋がっています。



■生徒を見守り、声がけをする三好先生。

#### ● 自由な雰囲気の中で

「たとえたくさん間違えたとしても、嫌にならずに学習を続けられるのがeライブラリのよさ。生徒は自分でいろんな方法を見つけます」と三好先生。範囲だけ指定したら、生徒の自由な学習を見守るのが基本スタンスです。

賑やかな教室ですが、集中の切れてしまった生徒はいません。じっくり考えたり、友達と教え合ったりと、各自が熱心に学習と向き合っているのが分かります。

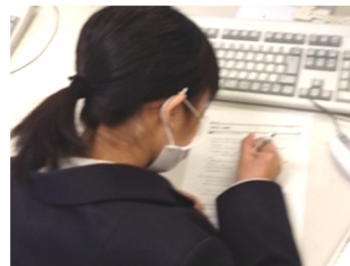


■4人で一斉に判定し、全員正解の喜びとスリルを分かち合っていた男子グループ。「どうしてこうなるの?」と真剣。

#### ● 最後はプリントでもうひと頑張り!

ドリルの後は、再び単元別プリントでの学習です。発展プリントが配布されると、教室は急に静かになり、鉛筆を走らせる音だけに。プリントやドリルでたくさんの問題に触れたことが礎となり、難易度の高い問題にも皆が粘り強く取り組んでいます。

学習範囲を絞り、プリント(10分)→ドリル(25分)→プリント(10分)の順で行う三好先生方式。2回目のプリントは「発展で伸ばす」と「標準でしっかり定着」の2パターンありますが、いずれも「自信をもって取り組み、力をつけてほしい」という先生の願いがこめられています。



■発展プリントにチャレンジ。

## 授業者の先生のお話

eライブラリは年間を通して既習内容の確認・定着で利用していますが、敢えて年間計画には入れずに、パソコン室の空き状況等に合わせて柔軟に対応できるようにしています。教師が全ての機能を把握してなくても手軽に使えるところが魅力で、授業のアクセントにもなっています。

範囲を絞った中で多くの問題にふれることで、「やったことあるかも」「できるはず」という前向きな気持ちで進められ、学習に苦手意識のある生徒も集中を切らすことなく、皆が一生懸命考えて取り組んでいます。



かすあき  
**三好計彰先生**  
(英語担当)

## 定期テスト 問題作成に高校入試問題 (DB) を活用

授業でのドリルやプリント利用に加え、定期テストの問題作成に「過去問データベース」をフル活用している、理科の深野基嗣 (ふかのもとつぐ) 先生にお話を伺いました。

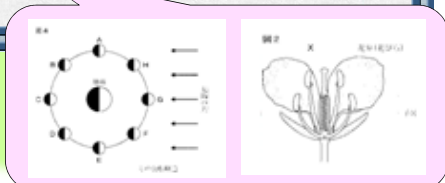
### ● 入試問題がwordで開ける!

理科のテストは図版を多く使いますが、適切な素材を探すのはなかなか大変です。4年程前に入試問題が編集可能なことを知って以来、定期テスト作成には毎回利用しており、今や無くては困る存在です。

全国の入試問題の中から、「光の性質」などのキーワードで検索できるのが便利です。



■過去問DBは、難易度や出題傾向などで検索ができます。



■校内での二次利用においては、著作権処理がされています。



もとつぐ  
**深野基嗣先生**  
(理科担当)

### ● 授業の補助教材として

単元別プリントは、ワークでの演習が不足している部分を中心に、補充的な教材として授業の中で利用しています。

プリント利用が中心でしたが、「せっかくだからドリルも使ってみよう」と思い利用してみたところ、生徒の反応がよく、学期に6回位のペースで利用するようになりました。教師は手軽に取り入れやすく、生徒は楽しみながら定着を図ることができます。

## 視察 交流を通し、よりよい学びを探究

この日は、eライブラリ導入予定の香川県東かがわ市より、2名の先生が視察に来られました。大川中学校の小山先生、角 (かど) 先生に感想を伺いました。

### ● 気負わない普段使いが魅力

ソフトウェアだけでは分からない生徒の反応や、日常的な実践の様子を見せていただき、とても参考になりました。「教師は必ずしも全てを把握しなくても大丈夫」ということで敷居が低くなり、無理なく活用できるイメージが持てました。

〇も×も効果音がいいですね。目と耳からの適度な刺激があり、学習障害のある生徒の学習にも取り入れられそうです。全問正解でファンファーレなど、今後の機能強化にも期待したいです。



■パソコン室でeライブラリ談義に花が咲きます。